

デンタル・プレゼンテーション

Dental presentation



内山 茂 (うちやま しげる)

1977年 東京医科歯科大学卒業
 1984年から2013年 所沢市ウチヤマ歯科医院院長
 1998年から 東京医科歯科大学臨床教授
 2013年から 東京医科歯科大学臨床研修医指導医
 1978年から約20年間母校同窓会で卒後教育の一環として学術講演会の企画運営に当たる。その後開始した自身の講演活動は延べ300回を超え、現在はその経験を生かして、プライベートセミナー、オーダーメイドセミナー等により後進の育成に尽力している。

「デンタル・プレゼンテーション」vol.9

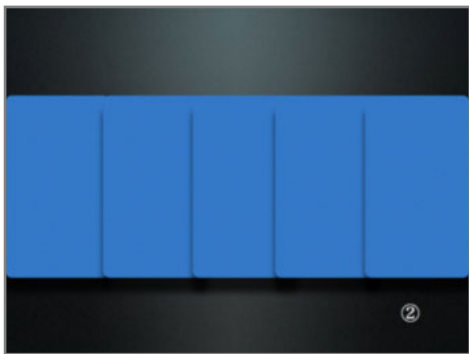
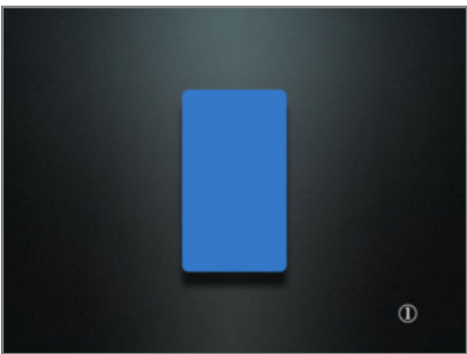
第2部(各論)

<規格写真にこだわる>

アナログ時代には規格写真を撮るためにレンズ、フィルム、倍率、撮影ポジション、ミラーの位置、光量などをいつも同じ条件にする必要がありました。デジタル写真では、トリミングやレベル調整などで画像を補正できるので、厳格な技術は不要ですが、経時的に同部位をスライド内に並べると、微妙に角度や大きさが違ってしまいます。

こんなときに便利な、プレゼンソフト(Keynote)内の「マスク機能」について解説します。文章にするとやや面倒に感じますが、それほど難しくないのでトライしてみてください。ここでは、大きさや角度の違う5枚の写真を規格写真に補正します。

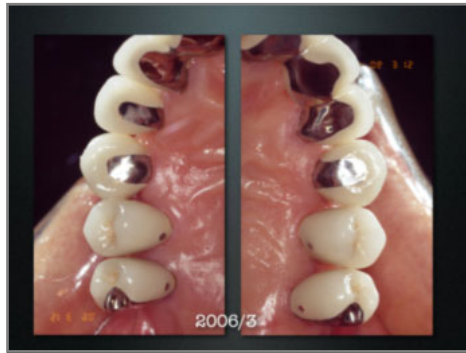
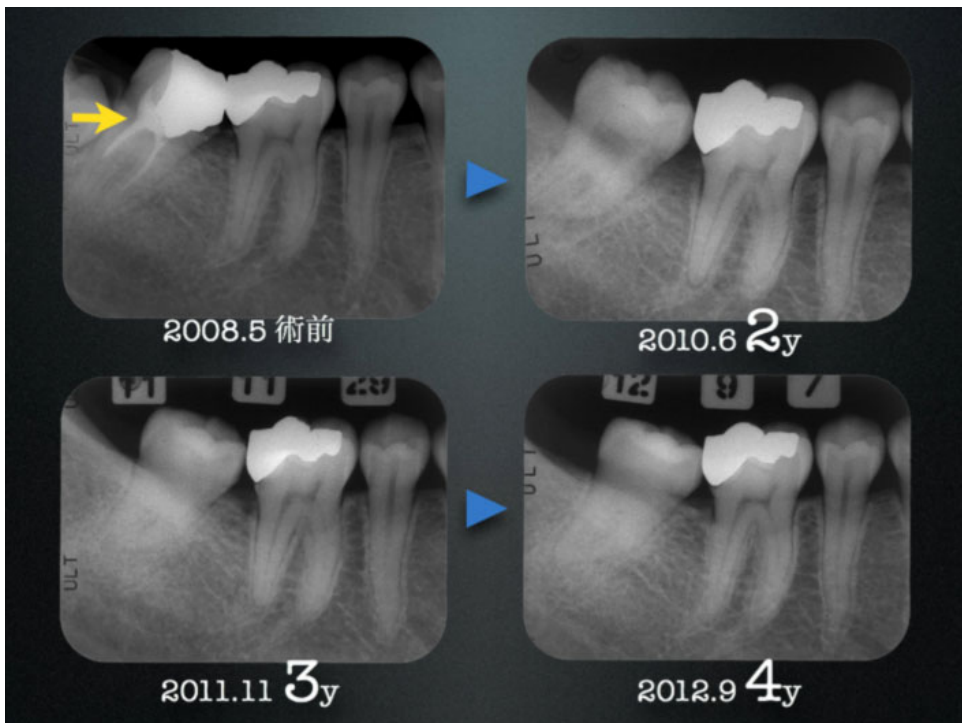
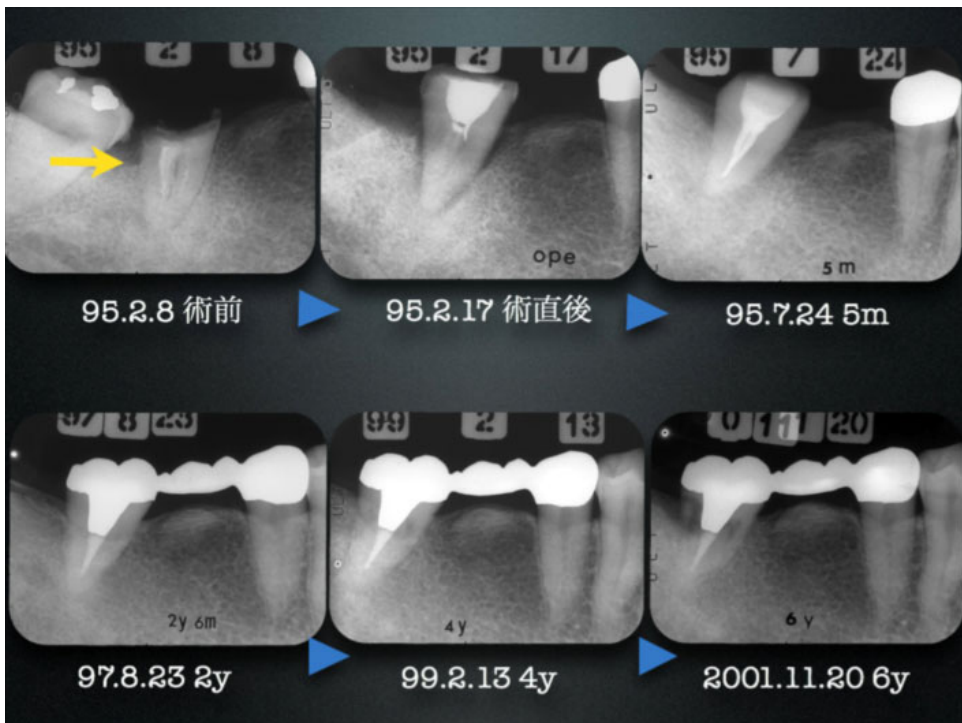
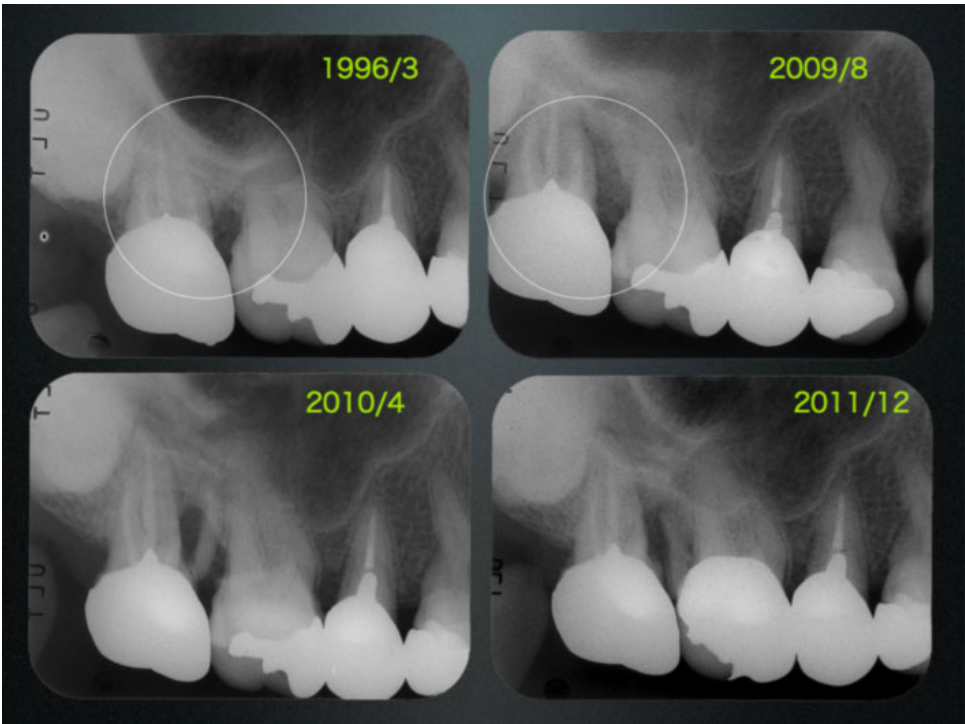
- ①メニューバーの「図形」から丸四角形を選択。スライドに反映された図形を選択して、インスペクターの「位置と回転」項目で縦横比と大きさを決定。この際「縦横比を固定」のチェックを外す。
- ②形が決まった図形を4回、コピー&ペーストし、5枚の図形を並べて配置。



- ③規格写真にしたい画像を1枚ずつ各図形の上に重ねる。(画像がマスキングされたことになるが、この段階では画像の大きさや傾きはバラバラ。)
- ④補正したい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリック。元画像が選択されるので、マスク編集で大きさと角度を補正しながら、5枚が規格写真になるよう調整する。



いかがですか。一見ごまかしのようですが、元画像を修正しているわけではないので、プレゼン手法の一つとして許容できる範囲だと思います。もちろん、デジカメでも普段からできるだけ規格性に富んだ臨床写真を撮るように努力しておいてください。以下は、私のプレゼンで使っている、調整を済ませた規格スライドの例です。あらかじめ規格写真を撮ることの重要性を実感していただけたと思います。



“「ピカ」”



カンジダ菌を溶かして消し去る「溶菌」ができる義歯洗浄剤です。毎日使用する「青ピカ」は、3つの酵素で口臭、歯垢、義歯性口内炎の原因となるカンジダ菌を溶菌除去し、また、週に一度使用する「赤ピカ」は活性酵素で着色性の汚れや義歯に染み込んだ臭いを取り除きます。通常は口腔内に定着しにくいカンジダ菌ですが、有床義歯などの粘膜面には好んで定住しプラークを形成します。「ピカ」はこのカンジダ菌を除菌・殺菌する効果があります。



ピカ

